

科目名	社会貢献の方法と実践	担当教員	中尾 学人 ※印は実務経験のある教員を示す。
-----	------------	------	---------------------------

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	教養科目	必修	1年次	前期	1単位	講義
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HR13AB	①、③、④					

科目概要	多文化共生とは、「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと」と定義されています。日本国内および世界には多様な文化や価値観があり、また豊かさの指標も多種多様です。近年、この多文化共生を背景とした多くの取り組み事例が国内外で増えてきています。本科目では、日本国内に加え世界の現状や課題、多様な文化について理解することを目的に、様々なアクティビティやグループワークを通じた社会貢献の方法と実践を学習します。それらを通じて、社会における自身の役割について認識し、自身が社会で主体性をもって実践できる方法を学びます。
学習目標	多様性について学習し、異文化に対し理解することを目標とする。また異文化理解に対する具体的な方法と実践をとおして、社会における自らの役割について理解することを目標とする。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験 教員担当 項目
1	社会貢献とは	社会の利益に役立てる実践例を紹介します。	社会の利益とは何かを理解する。	
2	社会貢献の実際;スポーツ現場	リハビリ職のスポーツ現場における取り組みを紹介します。	理学療法士のスポーツ現場の役割について理解する。	
3	社会貢献活動の実際;国際活動①	国際的な健康問題についてリハビリ職が担うべき役割について学習します。	国際的な健康問題についてリハビリ職が担うべき役割を理解する。	
4	社会貢献の実際;国際活動②	貧困などの国際問題を学習し、その具体策について、参加型ワークショップを行います。	貧困などの国際問題を理解し、具体策について議論できる。	
5	社会貢献の実際;スポーツを通じた国際活動	スポーツを通じた国際活動を実践するための参加型ワークショップを行います。	スポーツを通じた国際活動について理解し、自らプログラムを立案することができる。	
6	チームビルディングとは	チームビルディングと社会貢献の関係性をグループワーク形式で学習します。	チームビルディングと社会貢献の関係性について理解できる。	
7	チームビルディングの実践	チームビルディングの実践について学習します。	チームビルディングについて理解し、自身が果たせる役割を理解することができる。	
8	社会貢献の展望	これからの社会貢献のあり方について学習します。	社会貢献の展望について理解し、自身が果たせる役割を理解することができる。	
評価方法		講義出席(60%)、レポート提出(40%)で評価します。		
課題に対するフィードバック		授業をとおしてフィードバックする。		
教科図書		各回の授業で紹介しします。		
参考図書		とくに必要ありません。		
学習の準備		(事前学習) 前回講義の資料に目を通し復習しておくこと (90分) (事後学習) 講義終了後は配付資料を通読し、講義内容をまとめ疑問点を整理すること (90分)		

オフィスアワー	講義の前後
担当教員欄に※印を付した教員の 実務経験	